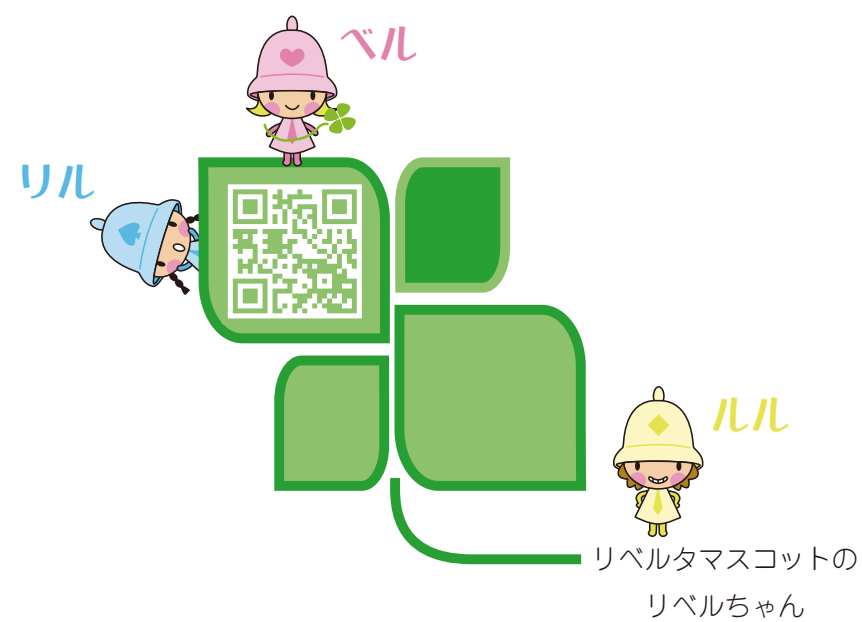


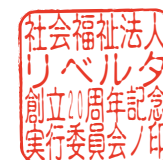
20th Anniversary

社会福祉法人リベルタ

創立二十周年記念誌



上記の QR コードをスマートフォンのカメラでアプリを使って読み取って頂きますと
社会福祉法人リベルタの最新情報が掲載されたホームページが閲覧できます。



Contents

目次	・ ・ ・ ・ ・ 2
基本理念	・ ・ ・ ・ ・ 3
設立趣意	・ ・ ・ ・ ・ 4 ～ 5
理事長挨拶	・ ・ ・ ・ ・ 6 ～ 7
リベルタのあゆみ	・ ・ ・ ・ ・ 8 ～ 9
リーダーズフォーラム	・ ・ ・ 1 0 ～ 1 7
パネルメッセージ	・ ・ ・ 1 8 ～ 2 7
結びに	・ ・ ・ ・ ・ 2 8
理事及び評議員	・ ・ ・ ・ ・ 2 9
編集後記	・ ・ ・ 3 0 ～ 3 1
QR コード	・ ・ ・ ・ ・ 3 2

基本理念

私たちは人権をキーワードに取り組みを進めています。
「すべての人々が自分の生き方を自分で決めることができる」
そういった基本的なことが、理不尽な差別や様々な要因で
実現できない、こんなことが社会にはたくさんあります。
時代の移り変わりの中失われつつある物、人の「優しさ」
や「暖かさ」または、翠（ミドリ）豊かな自然環境など
大事にしなければならない物がたくさんあります。
私たちは施設運営を含め、法人活動の中で人権尊重、
自由（リベルタ）を追求していきます。



地域と共に歩んできた20年 これからもずっと・・・

設立趣意

以前、私たちが住むこの地域に重度の障害を持った人がいました。その人は地域の障害者施設に通所し、入浴などのサービスを受けていましたが、ある時介護の中心であった家族の方が亡くなり、やむなく遠く離れた施設へ入所することになりました。

私たちはその時のいたたまれなさを忘れることができません。そして痛切に地域の福祉力（介護力）の低さを実感しました。地域福祉は「誰かがやってくれる」「行政が・・・」ではなく地域住民が主体となって取り組んでいかなければ本当に今必要なことに気付きません。

私たちはこの「やりきれない思い」「苦い経験」をもとに、社会福祉法人を設立し取り組んでいくことを決意しました。

1997年 設立時



社会福祉法人リベルタ 創立 20 周年を迎えて



社会福祉法人リベルタ
理事長 北口 末広

本年7月1日で社会福祉法人リベルタが創立されて20周年を迎えました。この20年の間にデイサービスセンター翠（みどり）を皮切りに特別養護老人ホーム白寿荘やグループホーム、サービス付き高齢者住宅、障害者施設など多くの事業を展開して参りました。こうした事業を推進することができましたのもリベルタの役員や従業員、利用者などの関係者が多くの貢献をしていただいたからであります。

日本社会は人口変動によって、社会的課題も大きく変化しています。現在のところ日本全体の人口減少はわずかではありますが、生産年齢人口（15歳～64歳）だけを取り上げると激減しています。1995年の約8700万人から20年が経過した2015年には約7650万人となり、1000万人以上減少しています。その減少分以上に65歳以上の高齢者が増加しています。まさに高齢者の増加によって人口減少が覆い隠されてきたといっても過言ではありません。これから2042年までの四半世紀は高齢者の絶対数が増加し続け、高齢化率はその後も増え続けると予測されています。

大阪府に焦点を当てていくとこうした変化がより身近に感じられます。大阪府の1980年と35年が経過した2015年を国立社会保障人口問題研究所のデータで比較すると明確にその姿が浮かび上がってきます。もし大阪府の人口が14歳以下の子どもだけだとすれば、約207万人が約104万人に減少しており、人口が半減していることが分かります。一方、65歳以上の高齢者だけなら約61万人が約240万人になっており、約4倍の増加になっています。著しい変化であります。

本法人の「リベルタ」という名称は「自由」という意味です。まさに高齢者が自由に人権・環境・安全が守られた状態で生活を営むことができるようにすることが、リベルタの重要な目的であります。さらに弱者・被差別者へのあらゆる差別をなくし人権を確立することが本法人の創立理念であります。

創立20年の節目にあたって、今日の社会的課題と創立理念を十分にふまえ、今後とも社会的要請に応えるために最大限の努力をしていくことを申し上げ、創立20周年のご挨拶とさせていただきます。



地域在宅サービスステーション翠 竣工式の様子
1999年3月24日



生江特別養護老人ホーム白寿荘 竣工式の様子
2004年3月25日

高齢者・障がい者施策と リベルタのあゆみ

～1990

1960年代
高齢者福祉政策の始まり 高齢化率（5.7%）
1963年 老人福祉法制定
（特別養護老人ホーム創設・老人家庭奉仕員法制化）

1970年代
老人医療費の増大
高齢化率（7.1%）1973年 老人医療無償化

1980年代
社会的入院の問題化 高齢化率（9.1%）
1982年 老人保健法の制定・医療費一定負担額の導入
1989年 ゴールドプラン
（高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略）策定
施設緊急整備と在宅福祉の推進



地域在宅サービスステーション 翠

1990年代
ゴールドプランの推進 高齢化率（12%）
1994年 新ゴールドプラン
（新・高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略）策定
在宅介護の充実
介護保険制度の導入準備 高齢化率（14.5%）
1997年 介護保険法成立

1997年6月16日 第1回社会福祉法人 発起人会 「名称リベルタの決定」
1998年7月1日 社会福祉法人リベルタの設立認可
1999年4月1日 地域在宅サービスステーション「翠」開設

1990～

2000～

2000年4月1日 介護保険開始（全国総人口12,693万人：大阪市人口260万人：旭区人口10万人）
2000年4月1日 ケアプランセンター「翠」開設
2000年4月1日 ヘルパーステーション「翠」開設
2002年7月1日 評議員会の設置
2002年10月1日 生活支援型食事サービス クローバー 開設
2003年4月1日 介護保険改定▲2.3%（自立支援の観点に立った居宅介護支援の確立）
身体障害者福祉センター大阪市立生江障害者会館の管理運営受託
2004年4月1日 生江特別養護老人ホーム白寿荘 開設
短期入所生活介護 開設（生江特別養護老人ホーム白寿荘）
2005年10月1日 介護保険改定（全国総人口12,777万人：大阪市人口263万人：旭区人口9.5万人）
2006年4月1日 介護保険改定 ▲2.4% ※10月改定含め
（中重度者への支援強化・地域包括ケア、認知症ケアの確立・医療と介護の昨日分担・連携の明確化）
2009年4月1日 介護保険改定△3.0%（介護従事者の人材確保・処遇改善・効率的なサービスの提供や新たなサービスの検証）
2012年2月6日 大阪市立生江障害者会館 光生園 大阪市より土地・建物売買により落札取得
2012年4月1日 介護保険改定△1.2%（在宅サービスの充実・自立支援型サービスの強化と重点化・介護人材の確保とサービスの質の評価）
2012年9月1日 放課後等デイサービス たいよう（守口市）開設
2014年4月1日 介護保険改定△0.63%（消費税8%引き上げへの対応）
2014年4月1日 大阪市立旭区・都島区老人福祉センターの管理運営受託
2015年3月1日 グループホーム よつば 開設
2015年4月1日 介護保険改定▲2.27%（介護人材確保対策の推進・サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築）
（全国総人口12,709万人：大阪市人口2,679,808人：旭区人口91,608人）
2015年4月1日 大阪市生活困窮者自立相談支援事業（相談支援） くらし相談窓口 委託
2016年1月1日 ケアプランセンター白寿 開設
2016年4月1日 大阪市立城東区老人福祉センターの管理運営受託
2017年6月1日 介護付き有料老人ホーム事業 寿寿 開設
（全国総人口12,693万人：大阪市人口2,691,185人：旭区人口91,458人）
2017年 介護保険改定△1.14%（介護人材の処遇改善）
2018年 介護保険改定△0.54%（地域包括ケアシステムの推進・自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現・多様な人材確保と生産性向上・介護保険サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保）



リベルタ配食サービス クローバー



生江障害者会館 光生園



生江特別養護老人ホーム 白寿荘



放課後等デイサービス たいよう



大阪市立旭区老人福祉センター



大阪市立都島区老人福祉センター



グループホーム よつば



くらし相談窓口（旭区）



ケアプランセンター 白寿



大阪市立城東区老人福祉センター



介護付き有料老人ホーム 寿寿 -ことこと-

地域在宅サービスステーション翠
施設長

康 良成（勤続20年）

デイサービスセンター

主任兼相談員

藤井 富彰（勤続9年）

ホームヘルプセンター

主任

松本 ゆりこ（勤続15年）

ケアプランセンター

介護支援専門員

大西 恒平（勤続14年）

康：リベルタが設立されて20年が経過しました。翠が20年前に開設した当初は介護職員の募集を行うと30～40名の応募がありました。生活相談員やソーシャルワーカーの応募になると100名近い応募になることもありました。状況は様変わりし、介護業界全体の話ではありますが、介護職員の求人に対して応募は激減し、また、介護職を希望する学生も減少、介護系の専門学校が定員割れになる状況です。このような状況の中で翠の未来を考える上で、今働いてもらっているスタッフ、また、今後介護の仕事に就こうと思っている方へのメッセージとして、翠で働こうと思ったきっかけや、介護の仕事の「やりがい」「魅力」について語ってもらいたいと思います。

翠に就職したきっかけは？

松本：保育の専門学校に通っていた関係で特養に実習に行く機会がありました。実習先で小柄な女性の介護職員が力技でない技術で介護をしている姿をみて、高齢者施設に関心を持ちました。

大西：私は学生時代、北口理事長の人権論の授業を受講したことがあり、今なお残る差別問題について学んだことがありました。大学卒業後、他業界に就職していたのですが、友人の誘いがあり翠に転職しました。

藤井：以前、医療機器の営業の仕事をしていて、人口呼吸器が必要な方などと接する機会がありましたが、日常生活に支援が必要な方に直接的に関わりたいと思い、翠の生活相談員の仕事に応募しました。

働いてみてどうでしたか？苦勞した点や、やりがいは？

松本：最初は利用者様と何を会話していいのか悩みました。徐々に自分の名前と顔を覚えていただき、コミュニケーションがとれてきて、楽しく会話ができるようになりました。今でも、ケアをしていく上で苦勞する点がありますが、利用者様のことを何度もみんなで話し合い、どうケアしていくかをチームで取り組むことにやりがいを覚えています。

大西：介護の知識が全くなかったので不安が大きかったです。また、当初は訪問介護の職員として勤務していたので、利用者様の自宅での調理には苦勞しました。ある日、一人暮らしの80代の女性宅に訪問したとき、台所にカレイの生魚がおいてあり、ヘルパーに調理をしてほしいとのことでした。カレイの煮つけを作り、召し上がっていただいたときに「おいしくできてて、うれしいわ」とおっしゃって頂いたときは、私もうれしい気持ちになりました。

藤井：生活相談員の立場上、利用者様や家族様、関係機関との連絡調整に気を使います。時には厳しい指摘を受けることもありますが、誠心誠意対応し、理解が得られた時にはお互いに信頼関係を築くことができました。「君がいてくれて助かったよ。これからもよろしくお願いしますね。」等の声を頂くことができた時、この仕事にやりがいを感ずいます。

今後介護の仕事に就こうと思っている方へのメッセージ

松本：精神的・肉体的に厳しい仕事ですが、やりがいもあります。利用者様が持っている力を発揮し、豊かな生活を送ることができるように、身近な存在として少しでもお力になればと思います。

大西：「できません」と言う事は簡単ですが、何事もやってみることが大切だと感じました。現在はケアマネージャーのお仕事をさせていただいていますが、担当させていただいた利用者様が、関わる以前より、その人らしくいきいきとした生活をされている姿を見たときは、この仕事にやりがいを感ずいます。

藤井：これからも利用者様、家族様、関係機関との信頼関係が築けるよう、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

康：有難うございました。核心をついたすばらしいコメントでした。介護の仕事の中にはやりがいや魅力がたくさんあるんだなあと感じました。受け取り方や感じ方、気づき方も人それぞれようです。少し立ち止まり、自分の気持ちを整理し、今の仕事のやりがいや魅力について考えてみるのもいいものだと思います。藤井さん、松本さん、大西さん大変お疲れさまでした。

光生園

リーダーズフォーラム

次世代を担う同士たちと語らう『光生園－現状と課題について』

2018年4月3日



館長：方・生活介護スタッフ：吉田・サービス管理責任者：平澤・介護主任：相澤



方：生江障害者会館が設立され33年、リベルタが事業運営を始め約15年経過しようとしています。現在障害福祉サービス4事業、障害者会館に隣接するグループホーム、計画相談が（児・者）2事業、放課後等デイサービス2ヶ所、大阪市受託事業が1事業と多機能的な事業展開を進める中、課題や問題点を感じるところはありますか？



平澤：1日の利用者様が8倍以上の定員になり、スタッフも6倍近い人員となった事で、各事業間での報告・連絡・相談などの連携がとれていないなどの課題がありました。その課題を解決するため、サービス管理責任者を中心とした委員会で様々な取り組みを進め、利用状況などのミーティングを行い、現場スタッフとの意思疎通も図っています。



方：事業間の連携は必ず必要になってきます。今後も継続して議論する場や検討する場を多く作っていきましょう。光生園はこれまで利用者様の生活課題に共感し、解決に向けて進めてきたからこそ、事業拡大に繋がったのかもしれませんが。今後も委員会や現場で議論する時は、利用者様に「寄り添う」支援を柱に進めてください。吉田さんは新人職員として、今何か悩みや課題はありますか？



吉田：私は高齢者支援に携わってきて障がい者支援は初めてになります。障がいの特性や違いについてもたくさん事を学ばせていただいております。利用者様によっては、日中を過ごされる時間に個々の特性やリズムがあったり、文字盤でのコミュニケーション、機能訓練など様々な支援の形があります。高齢者支援で経験したことだけが全てではないことを改めて感じました。

方：相澤さんはどうですか？



相澤：私は、光生園で食事・排泄・入浴介助等全てが初めての経験で、一つ一つの対応の違いに慌てたりしながら「してやる」「してあげる」という気持ちが先行し、注意をよく受けました。そんな中バイク運転中に交通事故に遭い足を骨折してしまいました。支援する側から受ける側に立った時、初めて気づいたのが支援は「してあげる」ではなく「支援がその方にどう寄り添い役立つことで、ともに喜びを感じるか」という心の持ち方だと気づきました。

平澤：相澤さんの中で起こった変化はとっても大事な事だと思います。「してやる」「してあげる」では、支援者が全て決めるという利用者様の「自己選択・自己決定」を奪う事になります。吉田さんもぜひ今の相澤さんの心の変化や在り方を覚えておいていただきたいと思います。

方：相澤主任はぜひその事を、他の事業スタッフにも発信してくださいね。平澤さんはサービス管理責任者としての支援をどのように考えますか？

平澤：サービス管理責任者が利用者様の個別支援計画を作成するにあたり、重要な事は「自己選択・自己決定」です。それには、利用者さまとのコミュニケーションを多く図る事が必要であり、生活状況や変化を捉えて利用者様と一緒にふり返りながら進めていく事をします。そこに「寄り添った」支援が生まれるのではないかと考えています。

方：そうですね。現場ではスタッフが利用者様の状況だけではなく、日常のお話を聞かせていただいて気付いたことが支援に繋がるというケースもあります。今後もそんな空間や環境を作っていく事が大事ですね。

平澤：吉田さん最後にどうですか？

吉田：光生園の利用者様は年齢層が広く、リベルタの他の施設とそこが大きく違います。子どもたちや、高齢者、障がい者の方への総合的な支援ができないか、今日のお話で自分の働き方が見えてきた気がしました。でも今は目の前の利用者さまに寄り添った支援となるよう一つ一つ進めていきたいと思っています。

方：まだ話足りないようですが、今後違う場でまた議論できることを楽しみにしています。私たちは常に向上心を持ち、利用者様から信頼していただけるよう「寄り添った支援」を心がけていきましょう。皆さんもどうもありがとうございました。



白寿荘

リーダーズフォーラム

次世代を担う同士たちと語らう『白寿荘の現状と課題について』

2018年4月10日



施設長：仙石・主任：工藤・副主任：松本・介護スタッフ：西山



仙石：白寿荘が開設して15年目に入ります。2017年（昨年）の有料老人ホーム寿寿開設にあたり、中核となっていたスタッフ5人が異動することになりました。新たに工藤主任が着任しましたが、困っている課題や問題点がありますか？



工藤：そうですね、直接介護に携わる機会が少なくなるので、副主任、フロアリーダー・各委員会を中心に、2つの課題についてどのように取り組んでいくかを話し合っています。1つめはスタッフの入れ替わりもあり、初心に戻る事も含めて「常にご利用者を意識して行動をする事」2つめは「マニュアルを改善していく事」です。どうしてもマニュアルに縛られ、行動基準を気にするばかりに、現場で起こっている些細な問題に目を背けている傾向があるからです。



仙石：確かに、直近の2年間はスタッフの異動もあり、指導や伝達方法にばらつきがあったかもしれません。新たに入社したスタッフは利用者様の詳細な変化に気づけてもマニュアルを順守するばかりに、自ら行動を起こすことを躊躇したかもしれませんね。西山さんは、どう思いますか？



西山：そうですね。出勤してからやるべき事がたくさんありますので、時間に追われている印象はあります。指導については特定のスタッフから教えて頂けるので問題はないのですが、内容によってはマニュアルと違う事があり困惑する事もあります。



松本：指導を行うスタッフは特定の人に定めているのですが、マニュアルを改定した事が上手く伝達できていない事があるかもしれません。最近は全体で会議を行う事が少なくなり、各委員会での決定や、分業をしっかりと行う事で効率的に物事を進めていこうとする傾向が強くなり過ぎていていると思う事もあります。



工藤：そうですね。効率的に物事を進めるだけではなく、答えは明確にならなくても全員で問題意識を共有する事も大事かもしれません。

仙石：マニュアルを改善していく事についてはどうですか？

工藤：はい、マニュアルについては一時期、携帯型を作成していましたが、多くなり過ぎて整理が必要と思っています。介護保険に定められている中身だけではなく、利用者様、個人個人に沿ったマニュアル作りを進めていこうと思っています。現場の介護力向上の為に、やはり基礎知識としてマニュアルを全員が統一し、現場の判断により応用していかなければならないと思います。

松本：そうですね。現場で判断すべき事は時間が無い場合が多い為、迷う事も多くあります。

西山：たしかに、副主任やリーダー等の判断を仰ぐ事も多いですね。

仙石：白寿荘での行動は、利用者様や職場の仲間が持つニーズを満たす事を「良し」として指針を作成しなければなりません。しかしながら、際限なく資源があるわけではないので、誰がどこまで決定できるかをマニュアルで定めておく事はスタッフの判断基準に必要な事です。ただし、今起こっている問題を自分のものと受け止めて直ぐに行動に移せる事が最重要だと思います。

工藤：確かに、白寿荘は365日24時間なので、管理者と連絡が取れず判断しなければならない事もありますので、全員が基本指針に沿って自ら行動できるように、マニュアルを改定していきたいと思います。

仙石：白寿荘は現在スタッフ50名で運営されていますが、法人が大きくなるにつれ人事異動もある事からオープニングスタッフは自分を合わせ4名となりました。しかしながら介護サービスを提供させて頂くにあたり、質の確保は絶対的な約束事であり、全員が常に向上心をもって運営していく事が一番重要な事だと思います。今後もご利用者目線の運営を心掛けていきたいと思っています。

寿寿

リーダーズフォーラム

次世代を担う同士たちと語らう『寿寿-ことごと-の現状と課題について』

2018年4月3日



介護スタッフ：田中・主任：木内・施設長：米田・事務長：大平



米田：介護付き有料老人ホーム寿寿は2017年6月に開設して10カ月が経過しました。オープニングスタッフとして白寿荘から人事異動した5名が中心メンバーとなり、皆さんの協力もあり約半年で満床となりました。しかしながら、まだまだ課題は山積しており、更にサービスの質を高めるにはどうしたら良いのかを話し合いたいと思います。まずは現状で困っている課題や問題点がありますか？



木内：そうですね、介護主任という立場をさせて頂く中で試行錯誤の毎日ですが、レクリエーションや行事イベントの充実を図る必要があると思っています。「食事・排泄・入浴」の身体介助や、「掃除・洗濯等」の生活援助は外す事のできない重要なサービスですが、レクリエーションや行事などの寿寿にしかないサービス提供にも尽力しなければならないと思います。



米田：確かに、ご家族様からもレクリエーションのニーズを良く耳にします、寿寿全体で提供するサービスとは別に、利用者個人の状態や趣味趣向に沿ったサービスを模索していく必要があると思います。
田中さんは、入社してまだ3ヶ月ほどですが、どう思いますか？



田中：はい、こうして施設長や主任の前で話をするのも緊張しますが、まだまだ介護技術や認知症介護についても勉強中で日々の業務を行うことで精一杯になってしまっています。レクリエーションについては、近所の公園へ散策や、利用者様と買い物に行ったりしています。数人の利用者様と買い物に行くと、色々な話しをして下さったり、利用者様同士の会話を聞いたりして、仕事の楽しさを感じる事ができますので、このような機会を増やしていけたらと思っています。



木内：田中さんは、寿寿が初めての介護の職場だと聞いています。食事・排泄・入浴介助等全てが初めての経験と思いますが、一つ一つの対応は丁寧で、こちらも初心を思い出す事が出来て改めて勉強になります。



大平：そうですね、我々は経験をもとに優先順位をつけてしまいましたが、利用者様にとって効率よりも重要な事が当然あると思います、田中さんの仕事を見て、我々も利用者様への対応を見直す良い機会になりますね。



米田：仕事が早いから良いという訳ではなく、入居者様のペースに合わせた介助が求められますよね。全てを介助するのではなく、入居者様が出来る事をご自分でやって頂く「自立支援」が大切になってくると思います。
話を戻しますが、現在課題となっているレクリエーションについて、今後どのような取り組みが必要ですか？

大平：約半年間で42名の入居者様にご入居して頂きました。新しい入居者様が增える度に業務内容が増えるため、介護業務が落ち着きませんでしたが満床になったことで、業務の安定と時間的なゆとりが出来てきました。今後は、介護職員数を安定させレクリエーション等に多くの時間を従事できる職員を確保していきたいと思っています。また、レクリエーションの内容についても、地域で開催している認知症喫茶（オレンジ喫茶）に参加したり、地域包括支援センターが開催しているイベント（100歳体操）に参加したりと、開かれた施設作りの取り組みも行っていきたいと考えています。

米田：地域交流の場を増やしていくことはとても重要だと思います。地域住民と繋がることで、介護の事で困り事があったとき、「あそこの施設に相談すれば安心」と思ってもらえる施設作りが必要だと思います。また、入居者様に対しても地域交流が増えることで、QOL(生活の質)を上げることが出来ます。「寿寿に入居して良かった。」と思っていただける施設作りに取り組んで行きましょう。



デイサービスセンター



ホームヘルプセンター



大阪市立
旭区老人福祉センター



大阪市立
都島区老人福祉センター



大阪市立
城東区老人福祉センター



くらし相談窓口
(大阪市生活困窮者
自立相談支援事業)
『旭区』



地域在宅サービスステーション 翠



地域在宅サービスステーション 翠
施設長 康 良成

1998年7月に社会福祉法人リベルタが創立し、今年で20年を迎えることができました。今思えばあっという間の20年間だったと思います。しかし、その間に、制度は目まぐるしく変化しました。介護保険制度の創設と幾度の制度改正、社会福祉法の改正など介護事業者として求められるもの、社会福祉法人として求められるものも変わってきました。認知症ケアや中重度者ケアが益々求められ、また、新たに社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みも求められるようになってきました。

20年前、旭区の高齢化率は約14%だったと記憶しています。それが今では約30%です。地域の中で暮らす独居高齢者も増加しました。地域福祉コミュニティも希薄化してきています。様々な福祉的課題を抱えながら生活している方が地域から孤立し、生活が立ち行かなくなる事例も増加しています。

翠は地域で暮らす要支援・要介護高齢者の居場所としての役割、さらに関係機関と連携して地域福祉を推進していく役割も求められています。地域の中で創立された社会福祉法人としての存在意義、地域の中で必要とされているものを再度認識し、地域のニーズに合った施設づくりを今後も進めて参ります。皆様のご支援とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



生江障害者会館 光生園

生江障害者会館光生園は、1985年6月1日に、大阪市同和地区障がい児・者福祉対策の一環として設置されました。

当初、地区障がい児・者の相談支援、入浴サービス、機能訓練、各種講演会や講習会を開催するとともに、レクリエーション活動などを用いた日常活動拠点として運営をしてきましたが、2002年に大阪市より障害者会館管理運営事業を受託し、利用者様の自立支援（自己選択・自己決定）を重視した身体・知的障害者デイサービス、精神ふれあい事業を進め、現在は総合的に障害福祉サービス事業を光生園内・外で取り組んでいます。「人権尊重」運営理念の基、利用者様が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、寄り添った支援を心がけていきます。

ご家族ならびに地域の皆様の施設運営に対するご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。



生江障害者会館 光生園
館長 方 寿

放課後等デイサービス
たいよう

グループホーム
よつば



生江特別養護老人ホーム 白寿荘



生江特別養護老人ホーム 白寿荘
施設長 仙石 正哉

私達はノーマライゼーションの理念を大切に、共に生きることへの追求と社会全体で高齢者を支えることを基本に、御利用者様へ尊敬の念を持ち、高齢者福祉の先進的役割を担いながら施設運営に努めてきました。

2004年4月に開設した白寿荘においても入居者一人ひとりのニーズを大切にその人らしい生活を実現するために、又、入居者を中心とした質の高いサービスを提供できるように取り組んでいます。これからも、地域で愛され信頼出来る施設へと努力していく所存ですので、今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

リベルタ配食サービス
クローバー



ケアプランセンター
白寿





介護付き有料老人ホーム 寿寿 — ことこと —

当施設は2017年6月1日に開設しました。要支援1から要介護5までの幅広い介護度の方が入居されており、管理者として入居後における様々な面を支援させて頂く事をサービスの基本としております。

施設での生活ではQOL（生活の質）の向上が最も重要と考える事から、安全面と自由度のバランスを重視しながら外出支援や「お一人」での外出も視野に入れ、その方に適した暮らしをサポートし、安心・安全を守れるお手伝いをさせていただきます。

また、飲酒や喫煙に関しても健康や安全面に配慮した上で、可能な限り自由に楽しんで頂いており、自宅に近い生活環境を整え、入居されている方々が仲の良い話し相手や日々の楽しみが持てるようこれからも支援していく所存です。



介護付き有料老人ホーム 寿寿
施設長 米田 豊

結びに



社会福祉法人リベルタ
専務理事 北田 一志

社会福祉法人リベルタは、本年度創立20周年を迎えました。20年の歩みを進めてこられたのは、ひとえに多くの人々に助けられ育てていただいたからです。

昨年、社会福祉法が改正され「地域共生社会」という考え方が出されました。これは「縦割りや支え手・受け手という関係を超え、すべての人々が我が事として参画し丸ごとつながる事で地域社会を創っていく」とし、人と人との関係を大事にし、人々が抱える生活課題の解決を目指し地域に根差した取組みの展開が求められています。そしてそれは私たちが地域での福祉活動や人権を守る活動の中で、中心に据えてきた大事な考え方そのものです。今後も私たちは、すべての人々が安心して暮らせる地域社会の創造に向けて全力を注ぐ決意です。

そして現在、リベルタでは200名以上の仲間がともに働いています。支えて・受け手を超えた「地域共生社会」の実現には、働く人々のたゆまぬ努力が不可欠です。すべての皆さんがやりがいを持って、安心して働ける職場づくりを追求し、未来への歩みを進めていきたいと考えます。

最後に、本20周年記念の記念誌作成や様々な催し物の企画など、実行委員をはじめ関係者の皆さまのご努力に敬意を表し、深く感謝を申し上げ、結びといたします。

理事及び評議員

理事長	北口 末廣
専務理事	北田 一志
理事	矢野 知
	橋本 汎
	北口 星
	康 良成
監事	前川 陽一
	福成 律子
評議員	和田 充弘
	中澤 昭広
	中谷 佳稔
	樋口 徹也
	中西 加代子
	高良 美由紀
	重光 英人



生江特別養護老人ホーム白寿荘 竣工式の様子
2004年3月25日

編集後記

新年早々から専務理事を委員長として各4施設から2名ずつの9名で20周年記念実行委員会は始まりました。記念誌と記念事業の2チームに分かれ、私たち記念誌チームは「地域と共に歩んできた記録を共有化する」「どうしたら読んでもらえるか」をテーマにリベルタらしくまずは「自由」に記念誌の編集を開始する事となりました。

読む機会が多くない「記念誌」を手にとって貰えるようにとのテーマと同時に、誌面編集作業のうえで困難を極めたのは、過去の写真が数える程しか無いという現実でした。業務終了後集まり、喧々諤々の議論をした結果、目につきやすいようまた、普通の形は面白くないとの議論から正方形に、過去写真点数が少ない事から現在在職するスタッフに協力頂き、120人以上のスタッフが登場し想いをパネルに乗せた記念誌となっています。

ただ正確に歴史を記すだけでは無く「現在から進むべき未来を語る」そんな20周年記念誌になればと編集させて頂きましたが、記念誌作成にあたり、日常業務で関わる事が少なかった各施設スタッフが20周年記念実行委員会アイデアを取捨選択される度に一喜一憂し、次号25年・30年記念誌に向けて写真は必ず撮りためようと語り合う数か月間でした。

記念事業チームにおいても、7月1日「創立記念事業」、8月25日「リベルタ合同夏祭り」、9月9日「(仮)リベルタ全員集合」の成功へ向け日々奮闘しているところです。

最後になりましたが、創立20周年記念誌を作成するにあたり関係機関の皆様には多大なるご協力いただきました事を心よりお礼申し上げます。



社会福祉法人リベルタ 創立20周年記念実行委員会

実行委員長 北田 一志
康 良成・仙石 正哉・方 寿・米田 豊
山口 昌宏・木内 健二・山口 貴宏・西田 良夫

